

## お薦めの「第九」リスト

岐阜県図書館(編)

当館所蔵CDと、ナクソスライブラリー (NML) から、お薦めの演奏をご紹介します。

NMLにログイン後、カタログ番号を検索ボックスに入力すると、該当の演奏がヒットします。

### トスカニーニ (1867~1957)

カラヤンやムーティなど、次世代の多くの指揮者に影響を与えたといわれる20世紀前半を代表する指揮者のひとり。

| No. | 曲名タイトル (NML)               | オーケストラ       | ポイント   | 録音年  | CD    | NML         |
|-----|----------------------------|--------------|--|------|-------|-------------|
|     |                            |              |  |      | 資料コード | カタログ番号      |
| 1   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(管弦楽作品集より) | NBC交響楽団      | 楽譜に忠実であることをモットーに、音楽の本質に迫ろうとした大指揮者トスカニーニ。そのためオーケストラへの要求も厳しく、その緊張感が伝わってくる演奏。 | 1952 | —     | GHCD2364-65 |
| 2   | 交響曲第9番《合唱付き》               | ミラノ・スカラ座管弦楽団 | イタリア語訳による珍しい歌唱版。   | 1946 | —     | CD-4027     |

### フルトヴェングラー (1886~1954)

ベートーヴェンの演奏を語る場合、避けて通れない稀代の名指揮者。現在も熱心なファンが多い。

| No. | 曲名タイトル (NML)  | オーケストラ            | ポイント  | 録音年                  | CD                       | NML          |
|-----|---|-------------------|---|----------------------|--------------------------|--------------|
|     |   |                   |   |                      | 資料コード                    | カタログ番号       |
| 1   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(クラシカロイド・プレゼンツ・オリジナル・クラシカル・ミュージック3より) | バイロイト祝祭歌劇場管弦楽団    | 第2次世界大戦後初めて開催(再開)されたバイロイト音楽祭における演奏。「フルトヴェングラーの第九」といえば、これを指すほど。この曲を語る上で欠かせない名演奏。                     | 1951                 | 8730245302               | 190295817404 |
| 2   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(ヴィルヘルム・フルトヴェングラー ウィーン・コンサートより)       | ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 | フルトヴェングラーとウィーン・フィルには、いくつか「第九」のライブ録音が残されている。弦楽器をはじめ、このオーケストラ特有の美しい響きが魅力となっている。                       | 1951<br>1952<br>1953 | 8710099889<br>(1953年録音盤) | C834118Y     |
| 3   | 交響曲第9番《合唱付き》  | ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 | ナチス施政下のベルリンにおける演奏。約80年前の録音で、音質は良くない。なお、同じ年「ヒトラー総統誕生記念日前夜祭」でフルトヴェングラーとベルリン・フィルは「第九」を演奏し、その録音も残されている。 | 1942                 | —                        | CD-4653      |
| 4   | 交響曲第9番《合唱付き》  | フィルハーモニー管弦楽団      | 「ルツェルンの第九」と呼ばれる当録音は、モノラル録音ながら音質が比較的クリアで聴きやすい。第3楽章の天国的な美しさや第4楽章終結部の猛烈なテンポによる追い込みは、彼ならではの魅力。          | 1954                 | —                        | CD-0790      |

### カラヤン (1908-1989)

フルトヴェングラーの後継者として、ベルリン・フィルの常任指揮者に就任。20世紀後半、世界的に活躍し「帝王」とも呼ばれる。

| No. | 曲名タイトル (NML)                                    | オーケストラ            | ポイント  | 録音年  | CD    | NML            |
|-----|---|-------------------|---|------|-------|----------------|
|     |   |                   |   |      | 資料コード | カタログ番号         |
| 1   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(ヘルベルト・フォン・カラヤン - 1960年代録音集1より) | ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 | カラヤン&ベルリン・フィル初期、最も充実していた頃の演奏。炸裂する金管・木管は迫力満点。  | 1962 | —     | 00028947945857 |
| 2   | 交響曲第9番《合唱付き》                                    | ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 | カラヤン&ウィーン・フィルによるザルツブルクでのライブ録音。モノラル録音で音質は冴えないが、こうしたレアな音源がNMLで聴けるのが面白い。                               | 1963 | —     | ARTEMISIA0032  |
| 3   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(ヘルベルト・フォン・カラヤン - 1970年代録音集3より) | ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 | カラヤンは生涯に4度ベートーヴェン「交響曲全集」を残している(ライブ収録は除く)が、音質と演奏のバランスが最も良いのは、この3度目の録音。円熟期を迎えた巨匠の、流麗かつスケールの大きな演奏が聴ける。 | 1976 | —     | 00028947916734 |

### その他 (ピアノ編曲版などを含む)

| No. | 曲名タイトル (NML)                         | 指揮者<br>オーケストラ           | ポイント   | 録音年  | CD         | NML            |
|-----|--------------------------------------|-------------------------|--|------|------------|----------------|
|     |                                      |                         |  |      | 資料コード      | カタログ番号         |
| 1   | 交響曲第9番《合唱付き》                         | ワルター指揮、<br>コロムビア交響楽団    | 穏やかで理性的な解釈で知られるワルターとは思えない、激しい一面が聴ける演奏。アダージョ楽章の透明さは、ワルターならではの。  | 1959 | 8710034347 | —              |
| 2   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(交響曲全集より)            | アンセルメ指揮、スイス・ロマン管弦楽団     | ソプラノのザザーランドをはじめ、独唱者の名唱が素晴らしい。  | 1959 | —          | 00028947871712 |
| 3   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(交響曲第1番 - 第9番ノ序曲集より) | ベーム指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 | ベーム&ウィーン・フィルのコンビは、当時、カラヤン&ベルリン・フィルと双璧を成していた。ベームは25年以上、ウィーン・フィルの実質的な首席指揮者として活躍し、数多くの名演を残した。                             | 1970 | —          | 00028947919506 |
| 4   | 交響曲第9番《合唱付き》                         | バーンスタイン指揮、5か国の合同オーケストラ  | ドイツを東西に分断していた「ベルリンの壁」崩壊直後に行われた歴史的ライブ。歌詞の中の「フロイデ(喜び)」を、全編「フライハイト(自由)」に言い換えて歌われている。当時の政治状況下で、会場に集う演奏者や聴衆の熱気と興奮が伝わってくる演奏。 | 1989 | —          | 00028948378685 |

| No. | 曲名タイトル (NML)                                  | 指揮者<br>オーケストラほか                                 | ポイント  | 録音年  | CD    | NML            |
|-----|---|---|---|------|-------|----------------|
|     |   |   |   |      | 資料コード | カタログ番号         |
| 5   | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | アーノンクール指揮、<br>ヨーロッパ室内管弦楽団                       | トランペットやティンパニなど、一部の楽器にバロック式のものを使用。第4楽章冒頭の金管による強烈な不協和音は必聴。自筆譜に立ち戻って校訂された新しい楽譜「ペーレンライター版」に準拠した演奏は、従来と異なる音が随所に聴き取れる。  | 1991 | —     | 825646626649   |
| 6   | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | ガーディナー指揮、<br>オルケストル・レヴォ<br>リューション・エ・ロ<br>マンティック | 1980年代半ばから作曲当時の古楽器（ピリオド楽器）及びその奏法を研究したアプローチが次々に登場したが、その代表的な録音。オケの名前のとおり「革命的でロマン的」な演奏。そのラディカルな響きは、従来の演奏スタイルに馴染んだ耳には、非常に衝撃的であった。   | 1992 | —     | 00028944707427 |
| 7   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(交響曲第1番 - 第9番より)              | アバド指揮、<br>ベルリン・フィルハーモ<br>ニー管弦楽団                 | カラヤンの後、ベルリン・フィルの芸術監督であったアバドが残した名演。世界最高峰の呼び声高いエリック・エリクソン室内合唱団&スウェーデン放送合唱団の合唱も素晴らしい。楽譜は「ペーレンライター版」を使用。  | 2000 | —     | 00028946900024 |
| 8   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(交響曲全集より)                     | 朝比奈隆指揮、<br>大阪フィルハーモニー交<br>響楽団                   | 「第九」の生涯指揮回数251回を誇る日本の大指揮者。遅いテンポの中に豊かな歌がある。豪快な金管楽器の響きも聴きどころ。   | 2000 | —     | OVCL-00354     |
| 9   | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(交響曲全集より)                     | ノリントン指揮、シュ<br>トゥットガルト放送交響<br>楽団                 | かねてより古楽器奏法による演奏で定評のあったノリントンが、モダンオーケストラを指揮して大きな話題となった録音。その演奏は、より過激になっているのが興味深い。現代のピッチを採用するが、弦楽器はビブラートをかけず古楽奏法に徹する。伝統と革新が絶妙に溶け合い生まれた名演である。                              | 2002 | —     | SWR19525CD     |
| 10  | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | 小澤征爾指揮、<br>サイトウ・キネン・オー<br>ケストラ                  | CD発売当時、ベストセラーを記録した演奏。指揮者とオケが全盛期を迎えていた当時、満を持して取り上げられた「第九」。中庸のテンポを取りつつ、徐々に熱気を帯びてゆく様子が聴き取れる必聴のライブ。一般に「第九」と言えば、このような演奏を思い浮かべるのではないだろうか。                                   | 2002 | —     | 00028948222544 |
| 11  | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | リッカルド・シャイー指<br>揮、ライプツィヒ・ゲ<br>ヴァントハウス管弦楽団        | 古楽器による演奏&解釈ばかりが目されていた当時、久々に登場したモダン楽器による名演。近年主流の早めのテンポを採りながらも、長年の歴史と伝統に培われたオーケストラの壮麗な響きが素晴らしい。CD発売時に「新たなスタンダードが生まれた」と評判になった。   | 2008 | —     | 00028947834977 |
| 12  | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | 久石譲指揮、ナガノ・<br>チェンバー・オーケス<br>トラ                  | ジブリ映画の音楽などで知られる久石譲が音楽監督を務めるこの特別編成のオーケストラには、日本の優秀な若手プレーヤーたちが集う。規模は小さめだが、個々の演奏技術の高さに裏付けられた抜群のアンサンブル。早めのテンポで颯爽と繰り広げられる演奏は、きわめて斬新だ。ソリスト、合唱のレベルも水準を上回る。現代日本が世界に誇る屈指の名演である。 | 2018 | —     | OVCL-00699     |
| 13  | 交響曲第9番《合唱付き》                                  | 鈴木雅明指揮、<br>バッハ・コレギウム・<br>ジャパン                   | 古楽器&奏法による演奏だが、解釈はきわめて穏当。歴代の巨匠たちの演奏に親しんだ人にも違和感なく聴ける。どの部分にもクセが無く、流れるように美しい。合唱の透明度の高さにも注目。   | 2019 | —     | BIS-2451       |
| 14  | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(リスト編) (交響曲第1<br>番 - 第9番)     | カツァリス (ピアノ)                                     | ロマン派を代表する作曲家のひとりであるリストは、ベートーヴェンの孫弟子にあたる。彼は「第九」を4手用、2手用に編曲しているが、いずれもピアノの名手らしい超絶技巧を凝らした作品となっている（この演奏は2手用）。独唱や合唱パートを含め、よくここまでピアノ1台で表現できるものだと感じてしまう。                      | 1983 | —     | 825646760046   |
| 15  | 交響曲第9番《合唱付き》<br>(F. カルクブレンナーに<br>よる声、合唱とピアノ編) | ペトレンコ (指揮)<br>広瀬悦子 (ピアノ)                        | ピアノと合唱による編曲はワーグナーやリストも残しているが、これはドイツの音楽家カルクブレンナーによるもの。ピアノパートは非常に難易度が高いことでも有名。なお合唱はフランス語訳の歌詞を使用している点も、聴きどころのひとつ。  | 2020 | —     | MIR534D        |

## 参考文献

レコード芸術／編『クラシック 不滅の名盤1000』(音楽之友社, 2018年) 資料コード: 8135012675

吉井亜彦『名盤鑑定百科 ベートーヴェン編』(春秋社, 2007年) 資料コード: 8133485511

レコード芸術／編『生誕250年 ベートーヴェンの交響曲・協奏曲』(音楽之友社, 2020年) 資料コード: 8135144244

曾我大介『第九虎の巻』(音楽之友社, 2013年) 資料コード: 8134377869